第13回 栗東市景観百年審議会の議事概要

１ 開催日時　平成２８年７月２５日（月）　午後３時から午後６時まで

２ 開催場所　栗東市役所　談話室　(庁舎３階)

３ 出席者数　１０名中８名

４ 議　事

１．報告事項

（１）第二次栗東市緑の基本計画策定について

（２）風格都市りっとう景観・緑化啓発プロジェクトについて

２．協議事項

（１）百年先のあなたに手渡す栗東市景観計画の見直しについて

３．そ の 他

（１）（仮称）りっとうまちなか緑化助成制度について

（２）大津湖南都市計画公園上鈎公園の変更について

５ 議事概要

１．報告事項

（１）第二次栗東市緑の基本計画策定について

○説明概要

・計画の基本的事項、緑に関する栗東市の現況について説明。

・基礎調査に基づく緑についての解析・調査結果について説明。

・緑に関する市の取り組み状況、緑に関する課題について説明。

○意見概要

（委　員）山林の面積が、20ha 減少しているというのは、これは開発か何かですか。

（事務局）六地蔵地先の工業団地の開発や国道１号バイパス等で山林部を栗東市内通ってございますので、そうした道路関係による減も出てきています。

（委　員）東海道沿いの、緑のたくさんある庭がつぶされて、3 階建て 4 階建ての建物が建っていくという計画があります。小さい範囲ですけれども、そういうものが消えつつありまして、地域として手を及ぼすことができなのが、歯がゆいというか、もどかしいというか。そういう開発は街道沿いで進んできているという報告です。

（委　員）懸案事項として、この審議会の中でも検討できればなというふうに思います。

（委　員）緑に関する指導要項というのは、業者に対してどんな指導をしているか聞きたい。

（事務局）一個人さんが建てられる住宅地において法的指導はないですが、風格づくり会談で、できるだけ緑を取り入れてもらうようお願いをしています。一定の住宅開発をする場合は、敷地の 6%は緑を取ってくださいという開発指導になっている。それと調整区域における地区計画による一団の開発地におきましては、緑地協定を結びまして、指導徹底をその分については、地区計画と併せてしているというのが現状です。

（委　員）そういう形で進めてこられたもので、どのくらいの面積の緑化が進んでいるのかということがデータとしてあると、今後このぐらいに伸ばしていきたいということも出てくるかと思いますし、特に市街化調整で緑地協定を結んで開発を許可されているケースなどは、そういった緑地の面積が増えるといったメリットがないと、市民の方の納得が得にくい部分があるのかと思います。

（委　員）パーセントで緑が増えたというのは、住民は満足度が直結しないと思います。日々の暮らしの思い出とか、経験が染み付いて、緑があってよかったなと落ち着くと思います。市民が満足してもらうところにどうやってもっていくかというと、他の部と協力し合ってやっていくと満足度がぐっと身近なものになるのではないかなと思います。

（事務局）基礎調査という点では、数値的な面積がどうであるとか、緑の量がというような数値的なものでしか出してはいないわけですが、次の第二次緑の基本計画では、目標に、数値だけでなく、市民の緑に対する想いや愛着があるのかとか、関心が高まってきたのかとか、そういうような想いの数値化をして盛り込んでいけるようにしたいと考えています。

（委　員）色んなイベントを市がバックアップする中で、景観に合うものをほめ合うとか、そういうことを奨励しましょうという活動をすごくされていた時期があって、そういう昔まいた種を検証して、もう一回心情に訴える色んな取り組みが、引き続き継続的にされたらいいなと思います。

（委　員）住民アンケートの中に住民の緑に対する想いを汲み取れるような項目が入っていると、こちらが必要としているような数値化がある程度進めていけるという気もしますし、もう一点は水と緑を活かすという部分で、ここは評価が低くなっている。今ある緑を活用するということや新たな種まきをしていくということが弱かったということが評価に表れてきているのではないかと思います。今ご指摘いただいた内容についても、今後ご検討いただければと思っています。

（事務局）アンケート結果で大きな公園というのはもっと増やしてほしいという市民さんの意見はあります、しかし自分の敷地で増やしたいということは、あまり感じ取れない。

その点意識を変えていただくような工夫が必要になってくると思います。みなさん個人としてはそれなりに満足されているという思いもありまして、栗東市のどういったところの緑にこれから重点を置くべきだというご意見がありましたら、聞かせていただきたい。

（委　員）市街化区域の街中の田んぼの風景は、色んな制度の中で価値が与えられていない部分なので、あえてそういうものの価値をちゃんと認めて、景観資源として残そうというような運動がここに含まれるべきかと思っています。栗東市は20年後とかに人口が減ってくることをまた問題にしていかないといけないから、今ある宅地がきっと疲弊をして空き家がどんどん増えていくというようなことが予想される。やはり既存の宅地がうまく住み継がれて、更新されたり人が迎えられたり、するような理念を盛り込まれて、今ある街中の田んぼが守られているようなこともここでは謳えるのかなと思います。

（事務局）今後どういった形で今おっしゃったような残し方をしていくのかというのも今後の課題の一つになると思います。

（委　員）人口が増えつつある、元気のあるこの時期だからこそできる、他所が先行しているわけですから、その轍を踏まないように、計画を立てるというのは非常にやりやすいと思う。その利点を大いに活かしていただきたい。今抑えておいて人口減少に移って行くときに、景色がいいからこっちに住みたいなと思って、人が来てくれるような状況を今から用意してつくる。景観だけの話ではないが、街の将来計画ということで考えると、20年30年向こうのことはなかなか決められませんけれども、そういった視点というのは栗東市にとっては大事な考えかと思います。

（委　員）水と緑の空間に対する印象の生け垣や植込みなどの居住空間の緑ですが20代の方は、今の状況で見て満足されていると思うが、多分50代の方とかは昔の緑とか良くご存知で、昔に比べて今は緑が少なくなっている。そういうことを思っていらっしゃることがここに表れてきていると思います。

　水と緑を活かす課題の地域のシンボル・資源の活用がこれから大切になってくると思っていまして、自分たちの地域がどういうところであるかとか、そこに資源がどうあって、それが上手く活かせるかとか、そういうことも考えていく必要があると思っていて、大宝西小学校の近くの川のところに小さな魚が大量に湧くようにいるとか、街中で、すごい資源だと思います。そういうことも拾い上げられるような環境に対しての教育とか、地域の方がそういうことに対して誇りをもってもらえるような、そういうことが必要になってくると思います。

（委　員）水と緑を守るということで、緑をハード的な見える部分としての整備もですけれど、緑に対する想いを育てるソフト的な事業が本来もう少しあるといいのかなと、その端的なのが環境教育ではないかなと思います。ですから、教育委員会サイドに提案

するなり、あるいは生涯学習的なことで取り組むとか、あるいは、都市計画的な取り組みの中で、子どもたちとそういう体験ができるような、あるいは健康福祉でもいいんですけれども、自然と触れ合う、そしてこの緑に対する意識を高めるようなソフト事業がもう少し増えてくるといいなという気はしています。実効性が難しい部分ではあるかと思います。ぜひ力を入れていただければと思います。

（委　員）子育て世代を応援するっていう政策が、これからの栗東市をすごくイメージを良くする。これから子育てするなら栗東市に住もうっていう気持ちにさせるには、景観や自然がいっぱいある、山岳部分が市の何％もある、カツラの木が何千年と生きているっていうような栗東市の特徴をもっとアピールする。これは他の観光課とか、それから教育課とか、一緒にやらないと、一緒に PR することが大事だと思います。市民に景観が私たちの売りであることをもっともっと PR するというのが大事だと思います。

（事務局）いわゆる地方創生ですね。人口減少時代を迎えていく中で、そこで生活していこうとすると、そこで若い人に働ける場所これが必要になります。その上で、住環境として、福祉とか、教育とか色んな部分があるわけですから、景観という部分も大いに取り組んでいきたいと、これは総合計画の中にも網羅されていることでもありますし、当然そういう意識の上でまちづくりを進めていきたいと思っています。

（２）風格都市りっとう景観・緑化啓発プロジェクトについて

○説明概要

・りっとう景観図鑑として整理する景観写真等の募集について説明。
・現在の応募状況、今後の取り組み予定について説明。

○意見概要

（委　員）応募は市民限定ですか。

（事務局）啓発は市民向けになっていますけれども、どなたでもご応募いただけます。応募していただくのは栗東市の景観になります。

（委　員）この図鑑は、冊子という形で最終的に終わるわけですか。

（事務局）今のところは景観図鑑という形で啓発できるものを作っていきたという形でございますので、何部作って、どこにどうするというところまでは決めておりません。

（委　員）どれだけ集まるか、まだわからないので、最終的に製本するところまでいけるのかということもあるでしょうね。

（委　員）「まちおもい帖」ってご存知ですか。あれは、クリエイター、デザイナー、カメラマンが感じた自分のまちのいいところを冊子にしましょうという、全国規模のものがあります。それを市民と一緒に作るのはどうかと思って、市民とクリエイターが一緒に 2 人か 3 人のグループになって、こういうものを作る、私はそれを整理する役目で、クリエイターと市民をくっつける。最終的に 12 冊を作りました。ある程度までお膳立てしてあげて、後は自分で作りましょうとなるとどんどん拡がっていく。うちでは面白い結果になって、発表会をしました。せっかく集めたいい写真をどういう形で皆さんに見せて、もっと拡げていくかということを考えると、プロジェクトがいいものになるのではないかと思いました。

（委　員）今図鑑なんていうのは、ほとんどウェブ上で、事足ります。でもここで作る図鑑っていうのは、何らかの形で、いろんな人に見てもらいたいものになっていくだろうと思うので、最終的には印刷された媒体というものも考えないといけないと思います。今何ページでと決めてしまうのではなくて、例えば継続的にずっと写真を集めながら、ウェブ上で公開していったり、図鑑としての体裁を整えながら、ある程度まとまったところで、冊子にしていくとか、あるいは第 1 刊、第 2 刊と続いていってもいいと思います。メディアの活用の仕方をもう少し工夫してもいいのかなというところは確かにあります。クリエイター、カメラマンもそうだし、ライターさんなんかもいてもいいのかなと思うし、そこに一般の人達が素人として、一緒に力を合わせてやれることが、市民の方にとってはすごく楽しい作業になっていくと思います。

（委　員）県にびわ湖ハンドブックって作られています。それで、びわ湖の地学的なことから、歴史から文化から文学とか環境とか魚とか生物とか、それが 200 ページぐらいになって、全部県のホームページにアップロードしてある。例えば自分の見たいところをダウンロードすることができるし、そういうこともやっておられる。そういう形でも可能だと思います。

（委　員）街道の蔵とか、中 2 階とか、目に見えてどんどんなくなってきている。10 年経てばもうなくなるのではないかという感じがする。街道を写真や絵に描いて、そして 10 年前 10 年前とタイムカプセルのようにして、市民に見てもらうということがいいような気がして進めようとしています。歴史がよみがえるというか、遡って反省できるような資料も考えてはどうかと思います。同じアングルで撮った写真で、同じ季節で、緑が少し増えてたとか、反省できるようにすることで、より皆さんに知ってもらうチャンスになるかなと思います。ただこういう景色があるというだけの一過性のものならないように、少し時間的なものを入れるとよりファンが拡がると思います。

（委　員）菌神社の参道は昔の雰囲気が残っています。松並木が菌神社のところは綺麗に残っていたりするので、ちゃんと残すようにしたらいいなと思っていますけれども、昔を思い出すから少しでもあったほうがいいと思います。

（委　員）景観の定点観測みたいな形ですね。それがまた評価に繋がっていくのと、写真で変化があると、それは興味の対象になりやすいと思います。

（委　員）びわ湖博物館に、びわ湖周辺のものですけれども、5,60 年ぐらい前の昭和初期からのその当時に撮られた写真と現在の風景と隣り合わせに展示をされていた。ああいうのを見るとすごく興味が湧いてくるというか、景観に対するまさに啓発されているという想いがするので、色んな人たちに見てもらえたらいいなと思います。同じように、このプロジェクトが上手く機能してくれるといいなと思います。

（委　員）効果的に啓発という目的もそうですし、栗東の景観を見つけ出すっていうメリットもあるし、それを収集できる、そしてそれを図鑑として PR に使えるといういくつもの目的に使えると思いますので、頑張ってやっていただきたいと思っております。アイデアそのものは、非常に素晴らしいと思っております。

（委　員）景観講座ですけど、例えば、可能なところでですけれども、小学校の高学年対象にしても面白いかなと思います。実際に撮ってきた栗東市の写真もありますので、そういったものを子どもたちに紹介しながら、写真ってなんだろうなとかいう話も含めて、子どもたちに実際に撮ってきてもらうとか、それをまた集めるとか、そういうことも可能ではないかと思います。

２．協議事項

（１）百年先のあなたに手渡す栗東市景観計画の見直しについて

○説明概要

・景観計画の見直しの背景と考え方、見直しのポイントについて説明。
・今後のスケジュールについて説明。
・現況と課題について説明。

○意見概要

（委　員）最初に覚悟を持って、基準を決めていなかった、それは個々の自由を無視することはできないという観点からあやふやな表現になっていたので、ほとんどが代理人による会談で終わって、形骸化していった。どれだけ覚悟を持って、数値化するかということは、今の時点でも求められているのではないかと思います。

例えば、全ストリートのたとえ 500m でも、ここだけはとてもいい景観であったとしたら、そこに価値があるのかどうか。まず栗東市の人たちが話し合って、もしそこに価値があると認められたら、景観審議会では覚悟をもって厳しい基準にする。

でもやっぱり発展のため、そして個人の自由を尊重するところも認めるのであれば、この辺のラインでどうかなという感じを受けました。

（委　員）通常の栗東市にある景観のいいなと思われるようなところに対して、住民の人に納得してもらえるだけの材料をこちらから提供できるだろうかということがまず一つある、どこまで推し進めていかなくてはならないのか、またそのことが後々どういった価値を持つことになるのかということをはっきりした意向を持って地域と対峙していく必要があると思います。まずその前の段階でこの地域にそれだけの価値を認めるのかというところは地元の人たちと十分話し合っていく必要があると思います。

全ての建物に対して、風格づくり会談という手続きを踏むということを決められたことに関しては、大英断ではないかなと思います。その分行政の方々の作業量というのは、極端に増えているだろうと思いますし、そこまで努力していただいているのに、成果が出てこないという残念な結果になってしまうことになりますので、そのあたりについて取り組みの姿勢を、市としても腹をくくってやれるかどうか。後は住民の方の理解をどこまで得ることができるかという２点にかかってくるのではないかなと思います。

（事務局）栗東市としましては、街道では中山道と東海道と２つの歴史街道があるという中で、東海道の蔵なり、塀など、こうした部分をどういう形で栗東の地域資源として、残すか残さないかという部分、それは地元の皆さんとひざを突き合わせて、本当に、栗東らしさ、重要さというのを、十分話をしていく必要があるというところなんですけども、今回の見直しにかかるアンケートについても、栗東市が地域資源として今後もそこを残していこうと、東海道の街並み特にぜさい屋・和中散なり、ああいう歴史的なところをやっぱり残していこうと腹をくくるならば、そこを重点的に、そこの地域の人の思いを、アンケートで吸収する必要があるというようなところも出てきますか。平たく市民全体にアンケートを取るのではなくて。

（委　員）そういう部分があってもいいと思います。もちろん景観全体に対する一般的なアンケートも必要ですけど、地域の意向調査のようなことを併せてやっていただけると、次に活かせるのかなと思います。

（事務局）自力では難しいけど、市の補助があれば、残していこうと思っているか、思っていないかとか。

（委　員）本当に繋いでいく次の世代の人の理解というのは、大事で、当然個人の物ですからそこの人の努力がないといけないのですが、それを行政として援助する。

一軒一軒のことを考えるのと、一つの特化した場所を残すというのと、どっちもやったら行政は無理だろうと思います。あれもこれも全部汲み上げたら、行政としては限度があるような気もします。そいうところをここで話し合う場かなと思います。

（委　員）実際に街道に沿った景色をなんとか残せないかと言って色々話したときに、景観という部分で言ったら、残したい、残していかないかんと思っていても、事情があってまちを捨てていくという人には、もう何ともできない。お金出しても、いやお金いらん、これを売って、金を儲けて出て行くという感覚ですから。非常に残念なことですけど、一軒一軒事情はあると思うのですけど、そのときはそんな状況でした。

（委　員）多くの方がおっしゃるのが、息子たちは今のこの家に住みたくないと、ないはずやと言う。それは、本当にそうなのか。どっかでそういう次の世代の方と出会える場所でやり取りをさせてもらえたらなっていうことを一つ思っている。
何年か前に街道の方からアンケートを取らせてもらったら、耐震性の不安、冬がとにかく寒いのと、暗いと、いわゆる今時の家なら全部を普通に解決しているようなことが、全くその性能が満たされていない。でも景観は要素としてはいい。今の百年の家を残しながら、耐震性能、断熱性能、省エネ性能を今時に改修する方法もしっかりあるので、それプラスこういうデザインが本当に若い人が嫌うデザインなのか。以前よくやっていたような見学会をやったり、工事現場をみてもらったりしたようなことで、出会える場所をつくってくれはったら、今栗東には志高い人もいはるんで、力を合わせて説明、語りかけをしていくこともできると思っています。

（委　員）10 年か 15 年で、栗東の中山道の街並みみたいに残るのは、もう大宝神社だけというようにならないかとものすごく心配しています。外観だけでも保存して、今の色々な技術で、ソーラー発電でも外からは見えないような斜度をつけるとか、そういう格好で、それはひとえに市役所の、税金の力だと思う。外観だけでもう中は好きにしてくれと。それが日本の建築の文化というか、流れやと思います。

（委　員）うちの近所でも、戦後すぐぐらいに建てられたおうちで、梁も立派。それを売って、集落の外に新たな家を建てて移ったんです。その昔のおうちは他所から来た人が住んで、ほんまに中を今風に変えてはるんで、出て行った方がこんなんできるんやったら、住んどいたら良かったと。そんな感じのことができるんで、本当にそれは見てもらって、感じてもらったら、今の若い人にもやっぱり古いけど、中はこういう風にしたら住めるんやというのはわかると思う。そういうのを知らないだけで、新しくしてしまうというのはあると思うので、そのあたりは色々提案することはできると思います。

（委　員）新しいっぽい建物のほうが若い人は好きだという、これはお年寄りの方の先入観だったりもする。実際には本当に価値のある家を 2 足 3 文で売ってしまって、ほとんど価値のない新築をつくって満足しているケースがものすごく多いと思う。大事なのはそういう話がちゃんとできる場がつくれるかなんです。だからこれは、建築資源の観点からもそういう話し合いの場をぜひ、建築指導課もひっくるめてというか、そんな形での取り組みとして、そういう場をつくることはできないかな。特に街道

沿いであるとか、古い景観を残したところを重点的にそういうところの後継者の人たちと話ができるような場がつくってもらえるといいな。木村委員なんかそういうところに出て行ってもらって、十分色んな話をしていただけるわけですし、また専門家の方もたくさんおられるので、そういうことも検討していただきたい。

（委　員）29 年度のワークショップっていうのが、例えばそういうことかなと。

（事務局）市に覚悟があるのか、そこを景観区域として指定していくのがいいかと、見直しの中でワークショップも踏まえて、ある程度そこの目標をしっかり立ててやっていかないと、結局街道沿いにしてもそうなんですけども、今のことの繰り返しになってしまいますので。

（委　員）市が仲介屋さんになって、古い建物をそのまま使いたい人仲介しますよというぐらいの組織をつくっちゃう。そうすると、今住んでいる人は売りたいですって言ったら、この建物を活かした使い方をしますという誓約をした人に紹介してあげる。仲介屋さん部門を覚悟を持って作っておくというのは良いと思います。東海道、中山道はなかなか難しいだろうが、観音寺あたりはいいケースになるていうのは、村全体が好きな人、建物が好きなんじゃなくて、景観自体、そういうところに住みたい人を仲介してあげる。それが栗東市のホームページの中に田舎住みませんか仲介屋さんみたいなね。その仲介役をやるというのも、一ついいのではないか。

（委　員）いわゆる空き家バンク的なことですね。

（委　員）畑とセットでね。

（委　員）ライフスタイルを込みで、提供するというか。仲介するシステムは重要だと思います。市が直接やるのか、中間的なところに委託するのかはまた別にしても、とにかく具体的にそれを進めることが大事だと思います。方策を今後考えていくんだろうと思いますし、さっき出てきました 29 年度事業の中のワークショップなんかは、形式的なワークショップやるのではなくて、それぞれの地域の後継者にきちっと訴えられるような中身のものを計画していく必要があるのかなということを思いました。

（委　員）ある方が、木造の古い農機具倉庫をつぶして、新しい鉄骨の農機具倉庫に建替えるっていうお話があって、工務店から代理人の依頼がありました。風格づくり会談に代理人として出席させていただいたんですけれども、そのときに何となく風情のある倉庫を鉄骨の倉庫にかえるわけですから、この風格づくり会談にいくにあたって、この通りに普通に持っていったら、駄目ですよという話をして、既存樹木を残しましょうとか、道から良く見えるところに新たに木を植えましょうとか、色は前の色に合わせた色にしましょうとか、そういうところでよろしいかなということを踏ま

えて、手続きをさせていただいた。だから代理人として、本人さんと一緒にこれなかったのは、本当に私としてはこの立場に居ながら恥ずかしいことなんですけれども、代理人が、設計者が出席していることイコール、必ずしも形骸的になっているわけではないかもしれないなと思って、この風格づくり会談というのは、担い手にはずいぶんボディブローのようには効いてきているような感じはあります。前向きな捉え方もあってもいいかなと。

（委　員）こういった前向きに協力いただける設計者とかあるいは開発業者の方がですね、そちらのほうに向けても啓発をしていく必要があるのかなということですね。

（委　員）一流の住宅メーカーならすぐ乗ってくるのではないのですか。相談に来たら、一言言うたらそれなりに、色々アイデア出して、建築確認のときに接触があるはずやから、そのときに言えるチャンスがあるやろうとは思うんですけどね。

（事務局）大手住宅メーカーは、当然栗東市は風格づくり会談があるという認識はしていただいています、ただ施主さんとの話の中で、具体的に施主さんに出すかというとそこまでは把握できていないということがあります。

（委　員）基本はその建築主の方がどういった意識を持って臨んでもらえるかというところにかかってくるだろうと思いますので啓発 PR とあわせて、先ほど出てきた対話の場をぜひ本格的につくっていただけるとありがたいなと思います。

（委　員）施主と一緒に 3 者会談というのは。

（委　員）建築主も一緒にという話になるとなかなか難しい。何の為に代理人を立ててるのかという話にもなりますし。その都度というのは難しいもっと前の段階でできるといいですけどね。

（委　員）現在栗東でメガソーラーとか、そういうふうなの、私は把握できてないんですけども、どっかにあるとか、今後つくられるとかそういう計画は出ているんでしょうか。

（事務局）メガまでの規模はないです。

（委　員）30 年までに、太陽光発電が栗東にどれぐらいできるのかちょっとわからないんですけども、もっと早く応急処置も必要なのかなって。そこが心配です。
もう一つ、例えば街道筋とかの街並みのところの瓦屋根のところにソーラーがついてしまったら、私としては絵が描けない。瓦屋根のよさというものがあるので、そこらへんはどうするのか。もちろん環境のこと考えたら、電力をせめて自分のおうちだけでもまかなえるというのは、すごくいい事やなとも思うし、でも景観からするとちょっと待ってとか思うところもある。

（事務局）最近は電力だけと違って、災害時に蓄電ができるという部分ですね。それと家の電気代だけと違って、電気自動車関連にも補給ができるという観点から、一概に景観だけでどこまでどういう判断を下していくとかというのは非常に難しい問題なんかなという気はします。

（委　員）場所によると思います。発電する機能とか、エコとかは別に考えるとして、景観上どうしてもこれは許せんなというものも中にはあります。それは位置的なシュチエーションもあるし、形態のこともあるし、そういったあたりで妥協点を見つけながら、規制ラインを決めていかないといけない。それは栗東は栗東のラインがあると思うし、今後協議してきちんと決めていかないといけない。環境など総合的な話になりますけど、景観上から考えても、何かしらの規制は絶対に必要になってくると思っています。

（委　員）湖南市なんか、大々的にね、市街化区域をメガとはいかんけど、1反とか2反とか、やっていますね。それなりに補助金出してはりますが、そのときの規制とか景観の関係、絡み合い、勉強したいですね。

（委　員）ある程度計画的にやってもらえる分についてはいいと思います。もちろん景観に対する配慮もした上で、ところが、五月雨式に無計画に、その辺の対策は早めに打っていかないと取り返しのつかないことになってしまうなと思っています。まだ現在進行形なので、いろいろ皆さんからアイデアいただきながら、それについては対応していけたらなと思います。

（委　員）指標なんですけど、これについてはなかなか短時間で、協議して決めるというのは難しいような気がしてはいるんですけども、少なくともこれについてはここまでできたという指標が必要やろうというご意見皆さんお持ちだと思います。それはできれば、まとめていただいて、事務局のほうにお寄せいただくということで、いかがでしょうか。この機会に一度見直していただいて、この部分はやはり指標が必要だろうと、ここまでやったよと市民にも見せるべきだと、自分たちも納得したいというようなところでご意見いただけたら、それを総合しながら検討していっていただく中で最終的な指標の設定というところに繋げていければと思います。宿題を出すような形になってしまって、大変に申し訳ないですけれども。

（１）大津湖南都市計画公園上鈎公園の変更について

３．そ の 他

（１）（仮称）りっとうまちなか緑化助成制度について

○説明概要

・内部での調整の状況や財政上の検討の中で課題があることから再度助成制度の中身、今後あり方を詰めていきたい旨について説明。

○意見概要

（委　員）

特になし

（２）大津湖南都市計画公園上鈎公園の変更について

○説明概要

・当初の計画決定から変更の経緯について説明。

・変更後の公園整備や今後の進め方について説明。

○説明概要

（委　員）公園をこんな真ん中に作るの。

（事務局）今広場整備は一定終わっているところで、蜂屋、上鈎、手原、下鈎と近隣に４自治会あるんですけども、ここに公園を移して、最終遊具整備、緑整備、駐車場整備をして完遂するということで、自治会としてのご了解はいただいています。

（委　員）全体を見て、田んぼと工場の真ん中に広場があって、工場のための防災機能的な広場のように瞬間的に思いますね。

（事務局）近隣公園は、旧の４学区それぞれにあります。その中で旧で言う治田学区の中で、いわゆる近隣公園としてどの場所にということで、最適なのが、栗東中央広場ということで、公園としての告示はすでにやっていたところです。

（委　員）今までの栗東市、栗東町の都市計画というものを考えたときに、それぞれの地区で作る、全体的な大きな区画というか計画が、それぞれまとまりがないなと思います。そういうわけ方は細かすぎるのではないかなという意見です。

（委　員）これにつきましては、都市計画のほうの案件ということで、景観側としてはできるだけ緑地化をしてほしいなということで、ご意見のほう述べさせていただいて、また公園としての機能については地元の方と十分話し合いをしてもらえればと思います。

以上